

## インドネシアの問題点

友好国でマーケットの大きいインドネシアで素晴らしいパートナーに恵まれ、胸を躍らせての4年半が経過した。これまで業界の多くの皆さんにインドネシアの長所を伝え、進出先としての優位性を紹介してきた。しかし、4年余りの経験から他国では見られないような問題点があることも経験した。当社だけでなく、多くの企業も頭を抱えているようだ。ここで実際にあったトラブルや独特の法律、習慣をお示したい。

まず生活面から。インドネシアのインフラの悪さはご存知と思うが、高速道路の渋滞がひどくなってから工事を始めるため、さらにひどい状況になっている。駐在員はアパートから25分

伊藤製作所社長

## 伊藤 澄夫 41



高速道路の渋滞は日常茶飯事

## 理不尽な法律・習慣

離れた会社まで、毎日片道2時間以上かけて通っている。ゴルフのプレー代やカラオケは日本以上に高額。食堂に行けば、日本で1400円程度の焼酎

をキープするのに1万円以上かかるのだ。駐在員は庶民の楽しみも奪われていいる。ゴルフ場でパスポートを携帯していないことで、5万円支払ったとい

その間にも理由の分からない名目で税を徴収される。経営者は利益が出るまでも何年でも無報酬で働き、早くこの国でも税金を払える身分になりたいと考えている。ただ、少なくとも私はこの

国での納税意欲はなくなった。

う話も聞いており、やはり日本人は金を取りやすいと思われているのだろう。ビジネスにおいては日本やフィリピンでは考えられない法律が存在する。

経営者は命を懸けて起業し、駐在員は家族とも離れ、異国でなれない生活をして頑張っている。会社の赤字を知っていても、10%以上の昇給を希望する社員は私の人生で初めてだった。インドネシアでこうした悪しき状況が続

最初にはジャカルタに輸送した機械は3カ月前後港に滞留する場合があります、早く引き取りたいと伝えると、1台数十万円を要求され、領収書も出ないのだ。

企業に進出は激減するのではないか。ただでさえ海外進出には苦勞が伴うものから、現地の行政は進出企業の立場になってサポートしていただきたい。早い時期に多額の法人税を徴収

さらに翌月になって高額な保管料の請求に頭を痛めることになる。売り上げが1円もない状況下でのことだ。

設立後数年間は赤字経営となるが、できるようにするために。

設立後数年間は赤字経営となるが、

できるようにするために。

設立後数年間は赤字経営となるが、

できるようにするために。

設立後数年間は赤字経営となるが、

できるようにするために。